旅人になった日

庭師ひよこ

gomita.books

手のひらに溜まったビー球が
ひとつ　ぽろりとこぼれるように

旅に出た

はじめての、ひとりたび

連れて行くのは
からっぽの電車

白い馬車でも　夜汽車でもなく

だれもいない　からっぽの電車

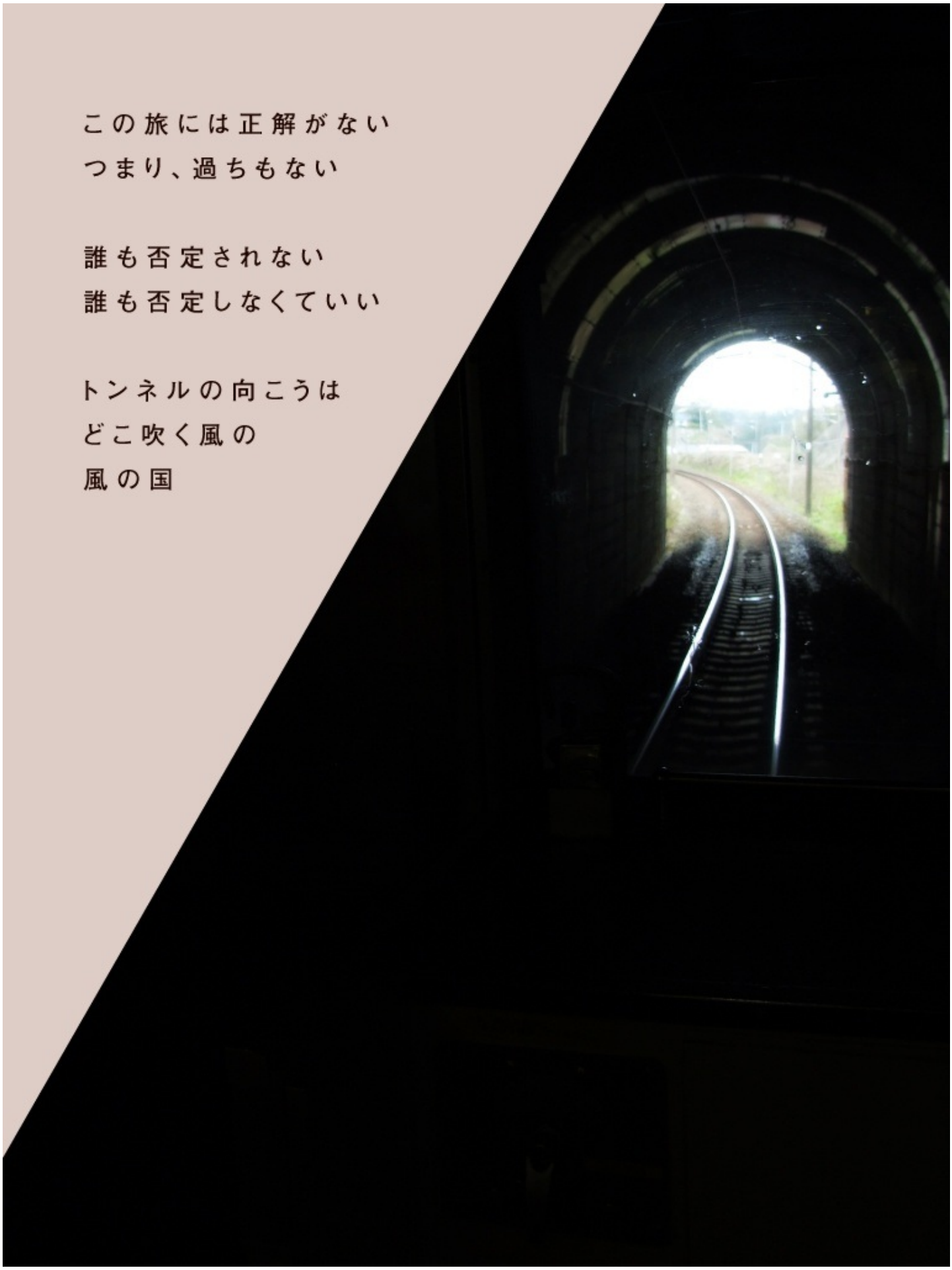
ことん　ことん

つぎは　知らない風景
そのつぎもまた　知らない景色

この旅には正解がない
つまり、過ちもない

誰も否定されない
誰も否定しなくていい

トンネルの向こうは
どこ吹く風の
風の国



旅人さん
こちらは初めてですか
そうですか　ひとりたびですか

どこへいきますか　決まっていませんか

それでは
私のとっておきの
秘密の場所を
教えてあげましょう

この道を
ずっと
のぼってごらんなさい

さあ、ふりかえってみてごらん

これが
私たちのたからもの

むかし　むかし　山だった彼らが
いまはこうして海に浮かぶ

その代わり果てた姿さえ
君たちはいとおしむ

いつか私たちが　風になっても

どうか　誰かが
愛してくれますように

旅人はみな
楽園を信じて　道をゆく

世界はきっと　美しいのだと信じて

風の歌が聞こえたら　出発の時間

旅人になった日

背負ったものは
みな捨てた

かさばる過去も
まぼろしのような未来も

何もかも手放したつもりで
空を見上げた

旅立ちを思う心は
希望から生まれたのだと
気づいたその日　旅人になった

旅人になった日

庭師ひよこ

Location：Matushima

gomita.books
2010/05

gomitabooks@gmail.com
http://maglog.jp/gomita/